

国立国語研究所学術情報リポジトリ

KOTONOHA検索コンテスト2020 優秀賞受賞作品2

著者	黒沢 晶子
雑誌名	言語資源活用ワークショップ発表論文集
巻	5
ページ	382-383
発行年	2020
URL	http://doi.org/10.15084/00003180

氏名（所属）	黒沢晶子（元山形大学）
テーマ名	一貫した歴史的増加・減少

・検索方法

品詞が「動詞」、活用形が「連用形」＋語彙素が「て」、品詞が「接続助詞」＋キーの語彙素が「居る」、品詞が「動詞」、語彙素読みが「イル」

前方共起条件を追加する

前方共起
キーから
2
語

品詞
の
大分類
が
動詞
条件を削除する
条件を追加する

AND
活用形
の
大分類
が
連用形
条件を削除する
条件を追加する

前方共起
キーから
1
語

語彙素
が
て
条件を削除する
条件を追加する

AND
品詞
の
中分類
が
助詞-接続助詞
条件を削除する
条件を追加する

キー

☐ キーの条件を指定しない

語彙素
が
居る
条件を削除する
条件を追加する

AND
品詞
の
大分類
が
動詞
条件を削除する
条件を追加する

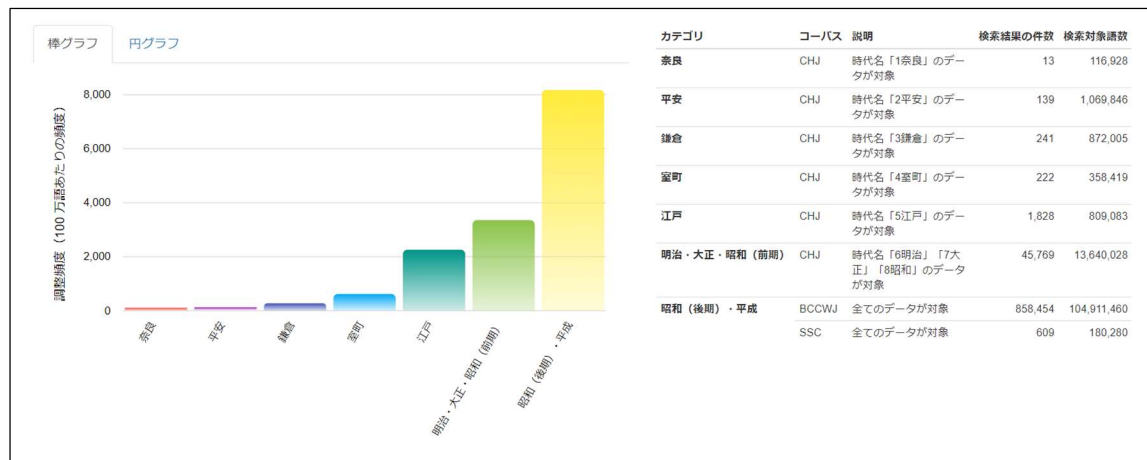
AND
語彙素読み
が
イル
条件を削除する
条件を追加する

後方共起条件を追加する

検索対象 ⓘ

☐ コーパス毎
☐ 書き言葉・話し言葉
☒ 時代
☐ 書き言葉・かたい話し言葉・くだけた話し言葉

・ 検索結果



・ 考察

「動詞＋て＋居る（イル）」における「居る（イル）」は、初め本動詞として使われていたが、次第に補助動詞としての用法を発達させていったことが「動詞＋ている」の一貫した増加につながったと考えられる。また、それが本動詞と補助動詞を合わせた「居る（イル）」全体の増加の要因ともなっている。（『居る（イル）』の一貫した歴史的増加 参照）